

## 【パネルディスカッションテーマ】

テーマ1：本市のまちづくりにおける課題と官民連携の取組

テーマ2：官民連携を進めるにあたっての課題

## 【主な発言内容】

○（茨木市長） 福岡 洋一 氏

茨木市では、まちづくりに関し、「ゼロをプラスに変えていく積極的な取組」として、「第3の居場所」や「活動人口の増加」をテーマに取り組んでおり、公有地活用に係る市民との直接対話の取組や、市民によるDIYの推進等を進めている。官民連携にあたっては、サウンディング等での対話対象の設定や、行政内のコーディネート力不足、従来発想の転換等が課題となっている。

○（川西市長） 大塩 民生 氏

川西市では、旧来の皮革産業の集積地をキセラ川西として再開発するにあたって、公園や遊歩道等の都市基盤整備をPFIで行う等、先進的な取組を進めている。その他、複合型公共施設の整備や川西市立総合医療センター構想等の取組において官民連携を推進している。一方で、市民参加や合意形成の面で、どのように幅広い市民の声を汲み上げるかについて、課題がある。

○（湖南市長） 谷畑 英吾 氏

湖南市では、働く場所の創出+ひとへの投資+まちづくりによる、人口減少の抑制、長期的な安定、人口構造の若返りを目指し、みらい公園「湖南」や「こなんウルトラパワー(株)」等の官民連携事業を進めている。取組にあたって、地域の事情に精通し、かつ、運営ノウハウに長けた事業主体の確保が課題となっている。

○（大東市長） 東坂 浩一 氏

大東市では、市の100%出資により「大東公民連携まちづくり事業(株)」を設立し、同社がPPPエージェントとなって市営住宅の建て替えプロジェクトを推進する等、官民連携によるまちづくりを積極的に展開している。一方、議会や市民、職員においては官民を対立関係と捉える発想が根強く、官民連携に係る理解の浸透等に課題がある。

○（舞鶴市長） 多々見 良三 氏

舞鶴市では、本市の近代化を象徴する「赤れんが倉庫群」を積極的に活かし、隣接する海上自衛隊施設とも連携しながら、赤れんが倉庫群とウォーターフロント一帯を整備し、日本海側を代表する一大交流拠点にすることを目指した赤れんが周辺等まちづくり事業に取り組んでいる。その中で、どのようにして民間事業者の参画を促していくかが課題となっている。

○（養父市長） 広瀬 栄 氏

養父市では、急速な人口減少や財政力の弱さ、多くの公共施設を抱えていること等を背景に、温浴施設や道の駅、トンネル等の整備にあたって、PFI手法の活用やコンストラクションマネジメント方式の導入等の民間活力導入を積極的に進めてきた。一方で、小規模都市であるためプロジェクトの規模が小さく、案件組成に係るコストを如何に抑制するかが課題となっている。



【官民連携（PPP/PFI）事業の推進に向けた首長意見交換会】



【(茨木市長) 福岡 洋一 氏】



【(川西市長) 大塩 民生 氏】



【(湖南市長) 谷畑 英吾 氏】



【(大東市長) 東坂 浩一 氏】



【(舞鶴市長) 多々見 良三 氏】



【(養父市長) 広瀬 栄 氏】



【(関西学院大学 経済学部 教授) 林 宜嗣 氏】



【(兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授)  
加藤 恵正 氏】